

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス がじゅまる(放課後等デイサービス)			
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		～	2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○従業者評価実施期間	2026年1月1日		～	2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月16日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	強度行動障害実践研修終了者2名、基礎研修終了1名を配置している。スケジュール説明時などは絵カードや文字、表など各人がわかりやすい方法(視覚的支援)を整えている。	強度行動障害児の支援はもちろん、新規で利用する児童にはその場所がどの目的で使用するのかなどを示す貼り紙やスケジュールを示す絵カードの活用、コミュニケーションツールとして臨機応変にホワイトボード(携帯できるサイズ)を使用し決まったイラストだけでなく、文字も活用しながら支援している。	強度行動障害児の対応(環境の構造化)も進めるが、その他利用する全児童が戸惑わずに自らアクションを起こすことができるようにしていく。
2	月一回の開所日の土曜日や長期休みなどは社会性を育てる意味でも屋内外での活動を積極的に取り入れている。	月一回の開所日の土曜日や長期休み時には、お出かけやお買い物の体験、クッキング、公共施設の利用などの活動を取り入れ、マナーやお金の使い方など実際に体験ができるようにしている。誕生日会(誕生日にお祝い、できない場合は前後するがなるべく近い日に)や季節の行事などに参加し四季折々を実際に感じ体感できるようにする。クッキングでは、自宅でも簡単にひとりでもできるメニューなどの挑戦し、食材の調達から調理、片づけまで行っている。	今後もプログラムを展開していくが、利用児童が企画から参加すること、将来の自立に向けて経験を増やしていくようにする。ワクワクドキドキするようなプログラム作りをしていく。
3	同一法人(小規模保育事業施設A型)とも連携しながら児童の受け入れをしている。	法人とも連携しながら、家庭の事情で地域で受け入れが困難なこどもの受け入れも行っている。児童に関わる様々な機関とも情報を共有しながら支援をしている。	地域の中で取り残される児童がいないように法人の方針にも沿い、それらを踏まえた支援を児童だけでなく、保護者支援にも広げ展開していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信不足(SNS等)。	ホームページはあるものの事業所の紹介のみにとどまっている。またInstagramは開設したもののまだ機能しきれていない。	事業所の特色や強みを広く知ってもらうための手段としてSNSの活用を進める。その他紙媒体も活用、パンフレットやお便りも各機関に配布し地域の方々に幅広く知ってもらうことが大事。
2	地域で子どもたちと接する機会はあるものの深く交流することがない。	外遊びや外出などの際には、地域の子どもたちとその場の共有は行いますが、「交流」と言う観点ではやれているとは言えない。また、平日の放課後の時間では外に行く時間も難しく。	障がい等の区別なく関わることは言うまでもないが、お出かけなどから地域の子どもたちと触れ合えるようにしていく。
3	人員配置基準を満たしているものの、相対的に児童発達支援・放課後等デイサービスでの経験者が少ない。	新規事業所を立ち上げたばかりで、外部研修などの機会が少ない。もっと踏み込んだ内容の研修会に参加ができればと思う。	職員のスキルアップを図るため、自治体や近隣の事業所で実施される研修に参加することはもちろん、要望があれば外部研修などにも参加していけるように配慮していく。